



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和2年度9月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

## できることから一つずつ

園長 田村 秀子

暑さの厳しい夏でしたが、朝夕は涼しい風が吹くようになり、虫の声に秋の訪れを感じる季節となりました。今年の夏は、新型コロナウイルスの予防と共に、熱中症への予防もしながら、会えない人に思いを馳せる、特別な夏だったのではないかと思います。豪雨による自然災害が発生した地域もあります。被災された方々が一日も早く安心して過ごせる日が来るように、お見舞い申し上げます。

第一幼稚園は、夏休みも毎日、預かり保育の子供たちが元気に、水に触れて砂遊びや色水遊びなどをしました。そして夏休みの初めと終わりには園庭開放も行い、親子で健康チェックをしていただいて、数組の親子が園庭で遊びました。固定遊具に登ったり、元気に走り回ったりしていましたが、人気は砂遊びでした。砂を掘って水を流したり、川の中を裸足で歩いたりして気持ちよさそうです。思い切り遊び、時間になると使った遊具を洗って片付け、手足をきれいに洗い、遊びの後始末をしっかりと行って帰っていく姿を見て、2学期の成長が楽しみになりました。

また、夏祭りは子供たちや企画・準備する保護者の方々の安全を考えて中止としましたが、代わりに7月の終わりと8月の終わりに計4日間、「ワクワクアートの日」を行いました。密を避けるために学年で日にちを分け、屋上や遊戯室をゆったりと使い、絵の具や水を使って遊びました。子供たちは感触を味わったり色の変化に気付いたりしながら、自分なりの表現を楽しんでいました。先生たちも子供たちが楽しめるように、いろいろ考えて準備をしましたが、予想以上に一人一人が素材との出会いを楽しみ、友達の言葉や動きに刺激を受け、イメージを広げてダイナミックに楽しんでいました。友達と一緒に空間で遊ぶことで生まれる楽しさ、イメージの伝え合い、一緒に動くことで生まれる表現など、新しい環境に自分から関わり、自分なりの楽しさを見付け、試したり工夫したりする姿に「楽しさは共鳴する、響き合う」ことを感じました。一幼会の係の方が選んで用意してくださった「夏のプレゼント」も大好評でしたし、保護者の方々が片付けを手伝ってくださることで、先生たちも安心して子供たちと関わることができました。

新型コロナウイルスとの闘いはまだまだ続きそうです。2学期も三密を避けながら、子供たちが人と関わることの楽しさを味わい、共に認め合い、自分で考えて動くことや共に活動することを学んでいけるように、安全な環境や成長に必要な経験ができる環境をつくりたいと思います。第一幼稚園の動植物や土の庭、空が広く見える屋上、大勢の友達や先生の存在などが、子供たちの感性を豊かに育ててくれることでしょう。

様々な方がコロナの状況下で参考になる言葉を発してくださっていますが、私は宇宙飛行士の野口 聡一さんのこの言葉が気に入っています。「その日できることに集中すること、がんばりすぎないこと、健康に気を配ること」宇宙で学んだ、戦いを乗り切るコツだそうです。様々な閉鎖環境、孤立した環境で、いかに生き抜くかという経験をたくさんする中で気付いたことだそうです。

今までのやり方に囚われず、大事にしたいことを見つめて、一つずつ、できることから集中して取り組んでいきましょう。体の免疫力を高めるためにも健康を第一に。そして子供たちを想う温かいつながりがあれば、実り多い2学期につながると信じています。保護者・地域の皆様には、2学期もご協力をどうぞよろしくお願いいたします。